

■今年の国語は？

**入試形式は大きく変わったが、「文中の答えを探し出す」+「漢字」の傾向は変わらず、より高得点の争いへ！**

■出題形式

昨年度（'19年度）までの1日目・2日目と2回に分けた入試から今年度（'20年度）は1回で長文2問に知識1問の構成になった。一見すると昨年度までとほとんど変化がないように見えるが、出題形式の比重に大きな変化があった。

漢字・語句・文法・接続後・副詞の補充問題は例年通り。ところが、関学の国語の特徴であった「本文を使う字数制限なしの記述」が全部で8問しか出ていない。昨年度の記述が合計で16問あったことを考えると半減である。

	2018年度 1日目/2日目	2019年度 1日目/2日目	2020年度 A日程
制限時間	45分/45分	45分/45分	60分
大問数	2問/2問	2問/3問	3問
小問数	16問/14問	14問/14問	19問
配点	100点/100点	100点/100点	200点
最高点	男子 88点/90点 女子 94点/97点	男子 89点/90点 女子 96点/94点	男子 182点 女子 196点
	男子合計 175点 女子合計 184点	男子合計 176点 女子合計 186点	
受験者平均点	男子 65点/64点 女子 73点/74点	男子 71点/71点 女子 76点/75点	男子 141点 女子 153点
合格者平均点	非公表	非公表	非公表

※ 今年度より入試日程が1日へと変更された。'18年、'19年については1日目・2日目のデータを掲載。

一方で、「ぬき出し」が昨年度の4問から5問に

増加している。数だけでは変化が感じられないが、内容読解における「ぬき出し」の比率が20%から38%へとほぼ倍増している。また、記述の減少により平均点が上昇するかと思われたが、男女ともに数点の上昇のみであった。これは、もともと「できるだけ文中のことばを使って」書く記述も一種のぬき出しだったと考えれば納得がいく。

入試形式は大きく変化した。内容は大きく変化していない。しかし、志願者と日程の増加のためか、合格に必要な点数（3教科合計）は上昇していて、男子で75%・女子で80%以上の得点が必要であった。そのため合格のためには国語も平均点を上回る点数が必要であったと思われる。

■出題内容

- 一 随筆 「三谷幸喜のありふれた生活」 三谷幸喜 朝日新聞夕刊 2019年4月11日 約1400字
- 二 説明文 『怖いくらい通じるカタカナ英語の法則』 池谷裕二 約2600字 講談社
- 三 漢字 二字熟語のペアに対義語になる一字を入れる問題

一は、新聞の随筆からの出題。偉人伝を読んで感じる違和感について、リンカーンを題材に説明している。読みやすい文章で、しかも入試問題としてはかなり短い文章なので易しく感じたのではないかと。5問ある記述のすべてが「できるだけ文中のことばを使って」書く問題であった。答えを探すだけでなく、文章を理解できる日本語にまとめなおす力を見ているといえる。

二は、日本人の英語の発音が英米人に通じない原因を述べた説明文からの出題。英語と日本語の特質を説明した文章としては標準的な内容である。さらに、字数の多いぬき出し（63字と34字）があるため、いかに早く、正確に本文中から正解を見つけ、過不足なく答えることができるかが得点差になるだろう。

同校の記述問題には「できるだけ文中のことばを使って」という条件がついているものが多い。これは本文中のことばだけで、答えが書けることを意味しているのだが、使用する部分が違えば採点基準に合わなくなるので、書き抜き問題と同じくらい慎重に答えを本文中から探してほしい。

■合格に向けての対策

「関学の国語は記述力」だと思われがちですが、問いに対して自ら答えを形作っていく高度な表現力や語彙力が必要とされるものはほとんどありません。その証拠に、「できるだけ文中のことばをつかって」という前置きがない記述は1問しかありません。よって、問われたことに対する答えを本文の中から早く見つけ出し、それを要領よく解答の形に加工（「～から」や「～こと」をつけたり、必要のない部分を削ったり等々）する力が必要です。ただし、字数制限がないので、解答欄の大きさに合わせて、過不足なく答えを作らなくてはなりません。大きく入試形式が変動した今年度も問題傾向に変化はなく、扱われる文章が違うだけで内容はほぼ同じなので、練習として同校の過去問をできるだけ多くこなしていくことが最適だといえます。これらの「作業」を効率的に、正確にこなせるように日々トレーニングを積んでおくことこそ合格への近道だと考えていましょう。一方、漢字を中心にした知識事項への精通にも力を入れてください。漢字の書き取りとそれを含む問題が21問もあり、これも昨年度までと変化していません。その他、ことわざ、慣用句、四字熟語、言葉の区別、主語・述語、敬語……など、さまざまな分野の知識問題の出題が予想されます。合格に必要な7割強から8割の得点を目指す上で、これらの得点の重要性を再認識し、漢字の書き取りの練習を地道に積み重ねてください。

■今年の算数は！？

今年度（'20年度）もやっぱり入試問題の鑑

■出題形式

昨年度（'19年度）まで2日間で実施してきた入試を、今年度より1日間（A日程）だけでの実施となり、時間が60分、配点が200点と変更になった（昨年度までは時間が50分×2、配点が100点×2）。問題形式に大きな変化はなく、大問数、小問数、出題傾向は例年通り。

共学化した'12年度より1日目、2日目とも①に5問あった計算問題が4問に減った。それに伴い、③～⑥のうちの大きい大問1問が（年度・日程により順は変わるが）小問2問～3問構成のものになり、従来の③～⑥の全問が1問1答であった頃と比べて、解きやすい問題が増えた。今年度実施のA日程、B日程とも、①は四則計算が4問。②は基本的な独立小問が4問。③以降は若干難度を上げた大問が続き、答えの他に式または考え方を記入させる問題形式である。受験生平均点は男女とも約60%を中心にゆるやかに上下に変動しており、今年度も同様である。

	2018年度 1日目/2日目	2019年度 1日目/2日目	2020年度 A日程
制限時間	50分/50分	50分/50分	60分
大問数	6問/6問	6問/6問	6問
小問数	14問/15問	15問/15問	15問
配点	100点/100点	100点/100点	200点
最高点	男子100点/100点 女子100点/100点	男子100点/97点 女子100点/88点	男子192点 女子186点
	男子合計190点 女子合計195点	男子合計189点 女子合計188点	
受験者平均点	男子68点/64点 女子72点/67点	男子66点/57点 女子65点/58点	男子127点 女子123点
合格者平均点	非公表	非公表	非公表

※ 今年度より入試日程が1日へと変更された。'18年、'19年については1日目・2日目のデータを掲載。

■出題内容

- ① (1)～(4) 四則計算      ② (1) 整数問題（割った余り）      (2) 立体図形（展開図）      (3) 食塩水濃度      (4) 通過算  
 ③ 場合の数（色のついたボールを並べる）      ④ 水量とグラフ      ⑤ 仕事算（不定方程式）  
 ⑥ 立体図形（立方体を積み上げてくり抜く）

① (1)～(4) 四則計算 逆算もなく難易度はそれほど高くない。確実に得点する必要がある。② (1) 整数問題。ある数を割った余りの問題。(2) 立体図形。展開図から体積を求める問題（四角柱）。(3) 食塩水濃度。混ぜ合わせて蒸発させる問題。(1)～(3)は易しい。確実に得点したいところ。(4) 通過算。読み間違いに注意。列車Bの長さのみに注目する。問題文を読まずにパターン認識だけをしていると正解できない。図をかくなどして状況を正しく見極める対応が必要。③ 場合の数。3色のボールを条件にしたがって並べる問題でやや難しい。最難関校で散見する問題を易しくアレンジしており、差のつく1問。1個、2個、3個、…と並べたとき、右端の球の色が白、黒、赤になる場合がそれぞれ何個ずつあるのかを表にまとめていく。一応、樹形図でも解くことは可能だが、時間はかかる。知識や経験の差が色濃く出る良問。④ 水量とグラフ。基礎問題を程よく応用した「ザ・基本問題」であり、絶妙なバランスの難易度である。グラフを読み取る力、つるかめ算の応用など作問者の意図がしっかり読み取れる良問。⑤ 仕事算。2種類のロボットによる仕事为题材で、のべ算と仕事算を組み合わせた問題。難関校では頻出のパターンである。それぞれの仕事量の比、全体量、つるかめ算など部分点要素がたくさんあり、点差のつく良問。数値条件も絶妙で総合的な算数の力が試される。⑥ 立体図形。64個の立方体を積み上げてくり抜いた図形に関する問題。(1)は体積を求める問題で1段ずつ分けて調べれば簡単に求められる。(2)はできた立体の表面に色をぬり、バラバラにしたときの4つの面がぬられている立方体の個数を調べる問題。中に空洞があることから丁寧に調べる必要があり難問。解くのに時間がかかることから、思い切って捨てるのも一手。立方体の数や設問のバランスが素晴らしい良問。

■合格に向けての対策

関西学院の入試は、計算4問から始まります。決して簡単ではないが、全問確実に合わせたいので、揺るぎない計算力を養うことが関西学院合格への第一歩です。出題分野については、幅広い領域からバランス良く出題されているので、的を絞って学習するのは避けた方が賢明です。つまり、合格するには苦手分野・領域を作らないことが重要となってきます。また、難易度については奇抜なものや難解なものはほとんどありませんが、決して易しくはありません。基本を大切にしつつ、応用問題にも積極的にチャレンジしておいてほしいところです。特に、難関校で頻出の問題を解きやすくして出題してくる傾向があります。問題構成は、文章題では「〇〇算」と数の性質・場合の数・規則性・濃度・商品売買等が中心です。その他の分野では、グラフの読み取りが最頻出です。'09年度から12年間連続で出題されています。「よむ」、「かく」とともに慣れておいてもらうことを希望します。速さに関する問題は難問が多く登場するので、状況図・ダイヤグラムをしっかりかく練習をしておいた方が好ましいです。図形問題は平面図形が中心であり、極度に難易度の高い問題は出題されないで、基本問題を数多く解いて確実に合わせられるようにしておくといでしょう。

■今年の理科は！？

原点回帰した昨年度（'19年度）をほぼ踏襲。時事問題も復活。

■出題形式

関学は、今年度（'20年度）よりB日程が追加され、従来2日に分けて実施されていた国算が1日になるなど、大きな変更が加えられた。ただし、1日目のみの実施であった理科にはほぼ影響がなく、内容的にも変わらない形式となった。

大問数は例年5問、小問数は例年50問強で、今年度は小問数が微減した他は、記述問題の量も含めて従来通りである。計算問題（計算選択式含む）が'17年度は10問、'18年度は

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	45分	45分	45分
大問数	5問	5問	5問
小問数	51問	53問	49問
配点	100点	100点	100点
	男子/女子	男子/女子	男子/女子
最高点	85点/92点	86点/85点	86点/85点
受験者平均点	61点/63点	64点/68点	67点/66点
合格者平均点	非公表	非公表	非公表

9問と多く出題されたが、昨年度は6問に減少し、今年度も5問と昨年度を踏襲している。'17年からの受験者平均点は、'17年：男子59点/女子64点、以降は表の通りで、計算問題が多く出た'17年度からの2年間はやや低い。このことから、昨年度より学校側が'16年以前の入試傾向に戻そうという意図で作問していると考えられ、今年度の平均点は入試問題としては理想的ではあるので、来年度（'21年度）以降もこの傾向が続く可能性は高いと考えられる。

■出題内容

- 問1 生物 ヒトの血液循環を中心にした人体総合問題
- 問2 時事 2019年の時事問題
- 問3 化学 水溶液の中和計算
- 問4 地学 流水のはたらきと川のまわりの地形
- 問5 物理 手回し発電機の実験とエネルギーの変換

問1 ヒトの血液循環の図から、各器官のはたらきを問う問題。記述問題が1問あるが、定型的なものであり、知識問題もそれほど細かい知識は不要で、人体の総合問題として一般的なレベルである。

問2 時事問題が2問。1つは本年度多くの学校で出題されている「はやぶさ2」と小惑星のリュウグウについてだが、もう1つは2019年に運用を終了したスーパーコンピュータ「京」の名前と用途を問うている。「京」が神戸市の研究所に設置されていたことからの出題だと考えられ、関学らしさを感じさせる。

問3 難しくはないが、比較的しっかりとした計算が必要な中和計算である。実験の数が多いので、問題の流れをきちんと把握し、そのうえで習った解き方を活用することが重要である。特に(11)から(13)は題意を捉えきれずに間違った者が多かったのではないだろうか。

問4 (6)までは、流水のはたらきと川のまわりの地形についての問題で、ごく基本レベルであり全問正解できる。記述問題が1問あるが、これも定型的なもので悩むことなく、暗記で書くことができる。(7)(8)は学校のある上ヶ原を題材にしていて戸惑うところもあるが、問うていることは常識的な内容である。

問5 ここ数年多くの学校で出題が続く、手回し発電機についての問題。成基では、6年の『スーパーノート+テキスト』には取り上げられていないが、後期の授業や日進で対策されているはずのオーソドックスな内容である。

■合格に向けての対策

関学はもともと、主に生物分野や時事問題に関する雑学的な知識を問うことによって得点の差をつけようとする傾向がありましたが、'17年度、'18年度は2年続けてかなりハードな計算問題を出題しました。その分、受験者平均点が下がり、これを想定以上の下がり方と考えたのか、昨年度と本年度入試については、計算問題はあるものの難易度を下げ、計算問題だけでなく知識問題でも差をつけようという意図が見られる出題となりました。来年度も同様の傾向が続くと考えると、知識偏重ではなく、計算単元もふくめて各分野へだたりなく、確実に学習しておく必要があります。できるだけ苦手単元をつくらぬよう、前期から夏休み明けまでの普段の学習の中で、中レベルまで知識や解法をしっかり定着させておいてください。

後期、特に11月以降には、問題演習として、関学の過去問をできるだけ多めにやっておくのが良いと考えられます。また、特に生物分野や時事問題の傾向が似ている、同志社や同志社女子の問題を解いておくのも有効です。なお、本年度、時事問題が3年ぶりに出題されましたが、昔から時事問題の出題を好む学校の1つなので、ふだんから理科に関するニュースについて、しっかりとアンテナを張り、吸収する姿勢を持っておいてください。